

『学生と地域で考える地域の魅力再発見ワークショップ』 実施報告書

報告：植木 一範（NBC，明倫短大）

1. 実施概要

日 時：平成 30 年 9 月 28 日 17:00～19:00、懇親会 19:00～20:00

会 場：明倫短期大学 講堂（懇親会は隣の講堂）

参加者：41 名（学生：16 名（18～22 歳）、地域の方：10 名、NBC 関係：11 名、教職員：4 名）

主催者：新潟ニュービジネス協議会、明倫短期大学

共 催：真砂小学校区コミュニティ協議会、新潟市異業種交流研究会

2. 実施目標

新潟市西区で最も高齢化率の高い当該地域にとって、地域に学生の若い力とアイデアを活かし、活力と新しい風を吹き込むことを目的とする。地域の魅力や課題を再度見直し、学生と地域で新しい事業の可能性を模索する。当研究事業を通して、学生と地域、各組織が交流を深め、それぞれの活力を得て、今後の発展を考え、新潟市のモデル事業となり得る形にするべく継続して実施する。

3. 実施内容

1) 真砂地域の現在と他の地域における事例紹介

- ・真砂地域が西区で最も高齢化率が高く、産業が少ないという現状等を簡単に紹介した。
- ・他の地域で学生が係った事例を、地ラボニイガタ資料を基に数例紹介した。
（例）地域の「イマ」に迫る 地域を題材とする映像制作（敬和学園大学）
棚田草刈りアート日本選手権（長岡造形大学）
新潟市中央区天明町 空き家を活用した地域活性化（新潟県立大学）
そらいろ子ども食堂（新潟県立大学・新潟青陵大学）等

2) 小グループによるワークショップ（6～7名グループ×6）

- ① グループは、学生、地域、NBC 等の立場の違う者を組み合わせて行った
- ② ワークショップの最初に、グループ内で、自己紹介を行った（約10分）。
- ③ 次いで、グループワークを開始し、ブレインストーミングにより、意見を抽出した。
- ④ 概ね、NBC 会員によるグループ内の進行（ファシリテーション）を行った。書記と発表者をグループ内で選出した。
- ⑤ 模造紙に、付箋を貼り、抽出意見の空間配置を行い、それぞれの関連、新規性、実現可能性について検討した。



3) グループからの意見抽出結果の発表内容

①グループ A

- ・地域のイベント、グラウンドゴルフ、防災訓練などへの学生ボランティアの参加。
- ・回覧板に情報を共有する。学生からの情報発信。地域との情報交換方法の確立。
- ・パソコン、スマホ、インターネット利用の講習会を学生が地域に対して行う。
- ・学生寮の空き部屋の活用法を考えたらいいと思う。
体育館や講堂も空き時間や休日には地域イベントに提供してはどうか。

②グループ B

- ・高齢者の口腔ケア、独居高齢者への訪問、口腔ケアイベントの告知。
口腔ケアの大切さを伝え、健康寿命に貢献する。
- ・学生が新聞部を作り、回覧板へ情報を発信する。
- ・防災訓練を地域の方と学生で実施する。
- ・生ごみの収集。独居老人家庭のごみ出しの手伝い。
- ・学生が地域方々とゲームやおしゃべりのイベントを開催する。
インターネットなどを利用して地域の面白ニュースを発信する。
子供からお年寄りまで参加できるイベントを開催する。
- ・若い人と高齢者が交流すべきである。

③グループ C

- ・茶の間での学生や子供との交流。地域行事への学生参加。地域の方々との交流を深める。
- ・明倫短期大学ならではのアプローチを行う。
口腔ケアや唾液マッサージなど地域の高齢者がそのような機会を多く得られるような組織作り。
- ・ゴミ出し、買い物支援。地域の方々からの要望が伝わりやすい環境づくり。

④グループ D

- ・親近者に頼めるような、簡単な力作業も手伝えるシステムが欲しい。
- ・ふれあい参加のイベントを企画する。話を聞いてもらう場を作る。
- ・防災訓練を実施する。移動できない高齢者をどのように避難させるか。
- ・このようなワークショップを継続して開催する。
- ・地域の方々が参加する文化祭や運動会を開催する。地域フリーマーケットを開催する。
フリマの収益では害獣対策なども行う。

⑤グループ E

- ・学生が小学生の見守り、見守りバッチを作成する。地域の方々に声掛けをする。
- ・茶の間の活用。学生と地域の交流の場にできたらいい。地域からの話や要望を聞く。
- ・歯科の知識を用いて、地域に貢献する場をつくる。
- ・地域の回覧板に明倫短大のイベント等の告知欄を作ってもらおう。

⑥グループ F

- ・雪かき、草刈等の手伝い。筋肉労働。ワンコイン手伝い。
- ・お茶相手。地域の方々との面識を深め、手伝いやボランティアを頼みやすい環境を作る。
- ・買い物、散歩などの同行支援。インターネットや通販等の購入支援。

4) ミニシンポジウム（各立場からの総括、展望。下線部は具体案。）

①渡邊信子氏（NBC）

- ・学生寮など大学の空き施設を活用するなど可能性のある意見も挙がり、地域にとっても大学や学生にとってもそれぞれに有益な情報を共有できたことが良かった。

②石橋氏（NBC）

- ・こうして学生と地域が交流すること自体が有益なことである。幸せな街づくり。
- ・この場だけでなく、グループがいつでも意見交換できるなどの取り組みも良いと思う。
- ・学生が地域貢献プロジェクトを作成し、定期的実施してはどうか。

③原澤氏（地域コミ協・異業種）

- ・海岸や防砂林など自然も豊かな場所であり、地域の魅力をもっと学生にも知ってもらいたいし、その活用を考えるいい機会となった。
- ・このイベントは継続して実施してほしい。
- ・海岸でサンドアートイベントを五十嵐小学校では実施している。真砂でも実施したらどうか。
- ・地域の共有カレンダーができると良いのではないか。

④高田氏（地域コミ協）

- ・今まで学生と地域が交流する機会がなく、学生の考えや雰囲気を知るいい機会となった。
- ・学生と地域の接点をもっと作るべきだったと感じた。今後も継続して実施してほしい。
- ・明倫学生の活動を地域にもっと広く認知させる。ゴミ拾いなどのボランティア活動の認知により、学生への信頼度をあげてもらえば地域からの要望もあがりやすくなり、学生と地域の関係がもっと良くなるのではないか。

⑤青木氏（新潟大学学生）

- ・地域の魅力とは、まず人材である。人材が交流することで、さらに魅力的になる。
- ・交流する場と、交流する時間を設定すれば輪が広がり、次の活動も生まれるのでは。
- ・今日の参加者がインフルエンサーとなり、活動を広めて、地域の認知度を上げる。
- ・明倫の学生会から先に手を差し伸べ、やってみることが大事である。

⑥渡邊高志氏（明倫短大職員）

- ・地域貢献、社会貢献が短期大学、本学の使命の一つである。
- ・地域との交流は最近はじめた段階であるが、何ができるか試行錯誤を続けている。
- ・新たな人の付き合いが機会となり、こういう機会が魅力となると発見した。
- ・地域の特別な取り組みとしてちょっとしたことでも始めていければいいと思う。
例えば、「真砂小学校区誰でもあいさつする関係づくり」など

4. 今回のまとめ

初めての企画「学生と地域で考える地域の魅力再発見ワークショップ」を開催し、学生にとっても、地域にとっても、関係者にとっても非常に有益な時間を過ごすことができた。初回ということで、具体的なアイデアが抽出されるまでは行かなかったが、学生と地域の間が意見交換を行うことが、とても有意義なことであり、今後の可能性が示唆される機会となった。このような機会の設定こそ地域の魅力となり、人材が交流することで新しい事業が生まれると考えられる。

各グループおよびミニシンポジウムでの意見を聞き、「地域に広く情報伝達を行い、学生と地域がコミュニケーションを取りやすい環境づくり」を目指すことが最優先事項ではないかと感じた。個人的な具体案として、アナログの回覧板などでの情報の伝わりにくく、デジタル利用のできない高齢化した地域に、若い学生たちの IT リテラシーを活かして、高齢者への SNS 利用方法を教え、SNS で若者と高齢者がつながることで、地域の活力向上も生じるのではないかと感じたので、検討していきたいと思う（植木）。

5. 次回に向けて改善点（委員会・コミ協等からの意見）

- ・継続して開催してほしい。
- ・グループワークにおいて、ファシリテーター等の役割を明確にして、進行をスムーズに行う必要がある。コミ協の方が話し続けてしまうグループがあった。
- ・当日参加や遅刻者などがいたため、学生が多い、女性だけのグループなど多少の偏りが生じた。
- ・模造紙にまとめた意見は、それを撮影したデータをプロジェクターで提示するなど大きく表示できればよかった。
- ・今後、抽出された意見からテーマを絞り、具体化された案が出てくるように考えると良いと思う。
- ・モデル事業として、今後は西区や他の区などに発展したらいいと思う。
- ・オブザーバーで西区からも参加していただく。社協と共有したら良い。
- ・ビジネス化も検討したら良い。運送業と事業化を検討する。等
- ・懇親会について、グループ毎に最初着席させるべきだった。コミ協のみ、学生のみ席などに完全に偏ってしまった。
- ・大学内での実施かつ未成年の学生もいたので、今回の懇親会はアルコールフリーで行ったが、大人はアルコールにより、さらなる意見交換ができたと思う。次回はぜひそういった懇親会も設定してほしい。



ミニシンポジウムの様子



懇親会の様子